

平成 2 6 年 6 月 2 4 日現在

機関番号： 6 2 5 0 1

研究種目： 基盤研究(B)

研究期間： 2009 ~ 2013

課題番号： 2 1 3 2 0 0 3 0

研究課題名（和文）シノワズリの中の日本 17 ~ 19 世紀の西洋における日本文化受容と中国

研究課題名（英文）Study on the reception of Japanese culture and art in Europe from 17th century to 19th century

研究代表者

日高 薫 (Hidaka, Kaori)

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授

研究者番号： 8 0 2 3 0 9 4 4

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,400,000 円、（間接経費） 4,020,000 円

研究成果の概要（和文）：ジャポニスム（19 世紀末）以前の西洋における日本文化受容を、漆器・磁器・染織品などの交易品を中心にとらえるとともに、西洋において「シノワズリ」と呼ばれる東洋趣味を総合的に把握し、その中における日本の役割について考察した。

従来、分野ごとに個別におこなわれてきた日本コレクションの調査を合同で実施することにより、当地における研究に寄与することができた。

また、漆の間・磁器の間の実地調査を通じて、オランダに始まった東洋趣味の室内装飾の伝統が、王族の姻戚関係を通じてドイツとイギリスに伝わったのちに、その他の国へ広まっていく経緯を確認することができた。

研究成果の概要（英文）：From the Japanese history perspective, the period between the 17th until the mid 19th century has exceptional meaning since at that time Japan opened for the first time toward western world and experienced lively culture exchange with Europe. In this research project, we examined how Japanese export objects such as lacquer, porcelain and textile were perceived in Europe, and in which ways the Japanese decorative arts had influenced the western culture and, finally, how the image of Japan had formed in Europe. We carried out researches on historical collections of Japanese decorative arts in Europe and studied original examples of interior decorations for Japanese arts in German, Italian, Swedish, French and Polish castles.

研究分野： 工芸史

科研費の分科・細目： 美学・美術史

キーワード： 交易 室内装飾 工芸 東西交流 漆器 磁器

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

- (1) 20 年あまりの間にめざましい進展をとげたジャポニスム研究は、近年では、その対象をより広範な地域、また視覚芸術を越えた文化・社会現象にまで拡大し、いっそうの深化をみせている。しかしながら、ジャポニスム以前の東西交流については、西洋美術や文化の構造自体を揺るがすほどの影響力を持ち得なかったとする理解が一般的であり、丹念な検討はおこなわれてこなかった。
- (2) もちろん、欧米におけるシノワズリ研究はひとつの分野をかたちづかっており、とくにこのテーマによる展覧会の開催回数多さは、当該分野に対する関心が決して低くないことを物語る。しかし、多くの研究成果は、主として欧米からの視点によるものであり、日本や中国の研究者が積極的に議論に加わり活発な展開をみせる段階には至っていないといえよう。
- (3) 日本においては、この分野を単独であつた研究書・概説書は、先見性のあつた先学によるわずかな業績 (Chisaburo Yamada, *Die Chinamode des Spätbarock*, Berlin, 1935・小林太市郎『支那と仏蘭西美術工芸』東方文化学院京都研究所、弘文堂書房、1937 年・山田智三郎『一七、一八世紀に於ける欧州美術と東亜の影響』アトリエ社、1942 年)を除けば皆無といってよく、基本文献として知られるヒュー・オナーの『シノワズリ』(1974 年刊)さえ邦訳されていない。
- (4) とはいえ、近年では貿易陶磁に加えて輸出漆器の研究の進展により、この時期の日本文化の受容に対する関心が、国内においても徐々に高まりを見せている。本研究の研究代表者および分担者、協力者は、漆工・陶磁・染織・絵画・演劇などの分野において、それぞれ東西交流の問題をあつかう過程で、これらの全体像をとらえる研究の重要性を認識するようになった。個別分野に関する研究は相応の進展をみせており、研究成果も蓄積されてきているため、これらを総合的に検証する作業に着手するのに時宜を得ていると考える。

2. 研究の目的

本研究は、ジャポニスム前史とともらえられる開国以前の時期に焦点をあて、西洋においては「シノワズリ(中国趣味)」と呼

ばれる文化現象の中の一部とみなされてきた日本文化受容のありさまを、分野横断的視点から総合的にとらえることを目的とする。当時の日本イメージ形成に大きく関与した漆器・陶磁器・染織などの交易品の受容とその模倣・影響の問題を中心としつつ、室内装飾や庭園・音楽・演劇・文学・生活様式など西洋文化の広範な領域にみられる日本趣味を検証する。あわせて、当時の西洋人にとって「幻想の東洋」の代表的存在であった中国の交易品との比較や、中国をはじめとする実体としてのアジア諸国と日本・西洋の交易や交流も視野に含め、アジアからの視点でシノワズリを把握する一助としたいと考えた。

日本が西欧世界と邂逅し文物・文化の交流が活発化した 17 世紀から開国前後の 19 世紀半ばまでの期間を設定し、多岐にわたる問題点のうち、研究期間中(4 年間)に達成したい当面の中心課題を以下の通り設定した。

西洋諸国における日本文化受容の様態

- (1) 漆器・磁器のコレクションの形成とその機能
- (2) 漆器・磁器と装飾(漆の小部屋・磁器の小部屋・中国の小部屋など)
- (3) 漆器・磁器の改造および金具の装着
- (4) 染織品の輸出と受容(ヤボンセ・ロッケン・ベッドカバー・壁布など)
- (5) 和紙・絵画その他の輸出と受容
- (6) 音楽・演劇・文学における日本趣味
模倣と影響 (技術・モチーフ・文様構成・表現など)
- (1) ジャパニング(模造漆器)
- (2) ヨーロッパにおける磁器の制作と模倣
- (3) インド製のヤボンセ・ロッケン
日本・中国・西洋の交流
- (1) 中国経由の磁器・漆器輸出
- (2) 中国製交易品(漆器・磁器・染織品)
- (3) 日中間の技術・美術交流と西洋市場
シノワズリからジャポニスムへ
- (1) シノワズリの定義
- (2) 従来のシノワズリ評価と新しい評価・ジャポニスムとの比較または関係性についての考察

3. 研究の方法

本研究では、研究目的に掲げた ～ の研究内容に関連して、海外および国内に所蔵される資料の調査・撮影を行うことを前提とし、なかでも、西欧諸国における日本文化の受容の実態を精査することが第一義であるため、各年度最低1回の海外調査（可能な限り全員参加）を研究計画の中核とした。

研究組織については、A 漆工、B 陶磁、C 染織の3班を中心に調査をおこない、これに周辺領域の動向を加味して全体像をとらえることを試みた。

4. 研究成果

(1) 海外コレクションの調査

各国に現存する漆の間・磁器室・鏡の間などのシノワズリ室内装飾の調査と、それを構成する日本製磁器・漆器および染織品、関連する中国・西洋製の工芸品の調査を行った

ドイツにおける調査（2009 年度）

訪問先は、ドレスデン国立美術館磁器コレクション館、ザクセン州立・国立・大学図書館、ヴァイカースハイム城、アルンシュタット城美術館「新宮殿」、パイロイト城、パイロイト・エルミタージュ城、バンベルク・新レジデンス、ファヴォリテ城、ラシュタット城、ニュンフェンブルク城、ミュンヘン・レジデンス美術館、ルードヴィックスブルク城。

ラシュタットのファヴォリテ城内の「日本の間」の壁面に貼り付けられた日本製の押絵について調査した結果、国内には伝世例がほとんどない極めて上質な押絵遺品であり、なおかつ制作工房が確認できる貴重な遺物と位置付けることができたことは特筆される。

イタリアにおける調査（2010 年度）

訪問先は、ドゥッカーレ宮殿（ヴェネツィア製漆塗盾）、レッツォニコ宮殿（ヴェネツィア漆器および日本・中国製磁器）ジェノヴァ王宮・赤の宮殿・白の宮殿・スピノーラ宮殿（日本製・中国製磁器）トリノのマダマ宮殿（シノワズリ室内装飾）、ヴィラ・デラ・レジーナ（シノワズリ室内装飾・漆器）の調査、王宮（漆の間・日本製磁器）、装飾美術館シノワズリ室内装飾の調査ピッティ宮殿（日本製漆器・磁器）、ヴェネツィア宮殿（日本製磁器）、ギャラリー・ドーリア・パンフィーリ（シノワズリ絵画・シノワズリ庭園）、パレルモのヴァルゲアルネーラ・ガンジ宮殿（日本製磁器）、中国小館（シノワズリ室内装飾）

ピエモンテ、シチリアは、とくにシノワズリが盛行した地域であり、まとまった遺例にめぐまれている。イタリアのシノワズリ、日本美術受容に関する基本的な調査をおこなえたことが有益であった。

スウェーデンの調査（2011 年度）

訪問先は、スコックロスタ城（漆器・磁器）、ストックホルム東洋美術館（漆器・磁器・染織品）、国立歴史博物館（染織品）、ドロットニングホルム宮殿（中国離宮の室内装飾および日本・中国製磁器・その他）、ヨーテボリ市立博物館（漆器・磁器）、ヨーテボリ海洋博物館、ルスカ美術工芸博物館、リンネ博物館（日本コレクション）、ウプサラ大学博物館

フランスにおける調査（2012 年度）

訪問先は、ヴィクトール・ユゴー記念館（中国風室内装飾）、カルナヴァレ美術館（漆器・磁器・シノワズリパネル等）、ルーブル美術館（シノワズリ）、パリ装飾美術館（漆器・磁器）、ジャックマール＝アンドレ美術館（磁器）、ニシム＝ド＝カモンド美術館（磁器および漆器）、ディジョン市立美術館（日本製漆器・磁器）、マニアン美術館（漆器・磁器）、セーヴル国立陶磁美術館（陶磁器の調査）、フォンテーヌブロー宮殿（中国博物館）、ヴェルサイユ宮殿美術館（日本製漆器および磁器）、シャンティイ城（陶磁器およびシノワズリ）【、ヴォー・ル・ヴィコント城（日本製磁器・漆器）

フランスにおいては、現存する磁器室の例は確認できなかったが、18～19 世紀のシノワズリ室内装飾の実例および漆器・磁器コレクションの調査を通じて、多くの新知見を得た。

スペインおよびポーランドにおける

調査（2013 年度）

スペイン国立装飾美術館において開催中の特別展「南蛮漆器 スペインに残された『日本』」Lucas Namban: Huellas de Japón en España- IV Centenario de la Embajada Keicho を見学し、企画者との意見交換により、最新の研究状況について知ることができた。その他、エル・エスコリアル修道院（中国製漆器）を訪問した。

ポーランドのヴィラノフ城が19 世紀初頭に収集した日本コレクションと「中国の間」の漆によるシノワズリ装飾について精査することができ、多くの新知見を得た。また、現地研究者との交流によって、その他クラクフのマンガ美術館（日本製漆器・磁器・染織品）を訪問、ポーランドの日本関係資料の所在についての情報を得ることができた。

(2) 研究成果の発信と、隣接領域との連携

2011 年度は、ジャポニズム学会のシンポジウムへの協力、および羽田科研（文部科学省日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(S)（研究代表者：東京大学羽田正教授「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」）との共催によるワークショップを開催し、本研究による成果の一部を公表するとともに、隣接領域の研究者との交流をはかることができた。

(3) まとめと今後の課題

主たる研究成果は、シノワズリという文化現象の全体像についての共通認識を深めることができたこと、また、従来個別に研究が進められてきた漆器と磁器の伝世状況と受容史に関して、共同で研究を行うことにより、多くの成果をあげることができた。

磁器班は、主として、磁器の間の装飾に用いられた日本製磁器の年代・産地・特色を精査するとともに、日本製と中国製の磁器がどのように配置され、空間を構成しているかに注目し、当時のヨーロッパの嗜好が日本磁器の造形にどのような影響を及ぼしていたかを検証した。

漆器班は、18世紀ヨーロッパのロココ美術の一分野としてシノワズリがどのように表現され、漆を用いた装飾がいかに機能していたかについて、個々の漆の間の事例における注文者の意図や、装飾の源泉、選択された技法等を通じて検討した。

また、漆の間、磁器の間の実地調査を通じて、オランダに始まった東洋趣味の室内装飾の伝統が、王族の姻戚関係を通じて、ドイツとイギリスに伝わったのちに、その他の国へ広まっていく経緯を確認することができた。

さらに、「シノワズリ」の用語・定義について、欧米の研究者と日本人研究者との認識に大きな齟齬があり、ヨーロッパ美術史の学問領域においては、「シノワズリ」とは、「西洋で作られた東洋風のもの」と認識するのが一般的であり、この中からは、東洋製の美術工芸品は除外されることが明確となった。

ただし、広範な地域に遺品を確認できる当該資料のうち、ドイツ・イタリア・北欧地域とフランスに関しては調査を実施し、状況を把握できたものの、イギリス・オランダをはじめ、調査未了の地域を多く残している。漆器・磁器同様に無視できない数量が輸出された染織品についても、現存遺品の確認が難しく、本格的な検討はおこなえていない。本研究で完了できなかった分野の調査研究、シノワズリの包括的な研究については、今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 20 件)

日高薫「読書案内 ジャポニスムとシノワズリ 西洋における日本美術の受容」『歴史と地理(世界史の研究 238)』671 巻、37 - 40 頁、2014 年、査読無

櫻庭美咲、「オランダ東インド会社従業員による個人貿易 西洋向け肥前磁器輸出の考察」『東洋陶磁』44 巻、75 - 92 頁、2014 年、査読有

日高薫、「世界史の中の桃山漆器」『日本美術全集 10 黄金とわび』210 - 214 頁、2013 年、査読無

山崎剛、「輸出漆器に見る物語絵の受容」『近世やまと絵再考 日・英・米それぞれの視点から』243 - 260 頁、2013 年、査読無

吉田雅子、「祇園祭の函谷鉾の花鳥獣刺繍見送と水引」『民俗藝術』29 巻、154 - 164 頁、2013 年、査読無

日高薫、「東洋風小部屋の装飾における『漆(japan)』」第 1 回畠山公開シンポジウム「西洋における中国/日本 17~19 世紀のシノワズリ とジャポニスム」21 - 30 頁、2012 年、査読無

櫻庭美咲、「ドイツ王侯の『磁器の間』にみるシノワズリ」第 1 回畠山公開シンポジウム「西洋における中国/日本 17~19 世紀のシノワズリ とジャポニスム」31 - 36 頁、2012 年、査読無

荒川正明、「古丸谷大皿の造形とその背景 祝祭のうつわ」『聚美』5 巻、28 - 49 頁、2012 年、査読無

吉田雅子、「日本に舶載された欧州輸出用の中国製染織品 - 刺繍ビロード 6 作品の意匠と技法を中心に - 」『人文学報』102 号、1 - 22 頁、2012 年、査読有

日高薫、「広東漆器 中国の輸出漆器」『歴博』165、20 - 23 頁、2011 年、査読無

櫻庭美咲、「『ジャパン』漆黒を表象する輸出磁器」『民族藝術』27、92 - 100 頁、2011 年、査読有

櫻庭美咲、「ヨーロッパにおける磁器製茶器の発展-肥前磁器製茶器からヨーロッパ製磁器のセルヴィスへ」『周縁の文化交渉学シリーズ 1 東アジアの茶飲文化と茶業』関西大学文化交渉学教育研究拠点、209 - 223 頁、2011 年、査読無

日高薫、「Maritime trade in Asia and the circulation of lacquerware」*East Asian Lacquer: Material Culture, Science and Conservation*、5 - 9 頁、2011 年、査読無

櫻庭美咲、「「外交とセーヴル磁器展-ヨーロッパの歴史を動かした華麗な器たち」に寄せて」『陶説』28 - 32 頁、2011 年、査読無

岡泰正、「視覚の近代を求めて-日本洋風画小史」*18-19 Century Japan through her Painting and Prints: Meeting with the west Collection from Kobe City Museum Catalogue*、12 - 26 頁、2011 年、査読無

吉田雅子、「譲伝寺と臨濟寺に伝来する花鳥獣文様刺繍布 生産地・制作年代・記

録・墨書・伝来の検討」『京都市立芸術大学研究紀要』55号、3-15頁、2011年、査読無

日高 薫、"Les lieux de fabrication des laques au Japon jusqu'à la fin de la période Edo", *L'or du Japon : Laques anciens des collections publiques françaises*、17-23頁、2010年、査読無

櫻庭美咲、「マイセンの300周年記念祭」『陶説』日本陶磁協会、11-16頁、2010年、査読無

吉田雅子、「欧州意匠の中国染織品」『美術フォーラム』19号、44-49頁、2009年、査読有

吉田雅子、「伝秀吉所用の花葉文刺繍ピロード陣羽織-制作地、制作年代、制作背景の推定」『美術史』167号、1-16頁、2009年、査読有

〔学会発表〕(計 14件)

日高薫、「シーボルトコレクションの漆器」『国際シンポジウム シーボルトが紹介したかった日本』ドイツ、ルール大学ボーフム、2014年2月12日

櫻庭美咲、「シーボルトコレクションの陶磁器」『国際シンポジウム シーボルトが紹介したかった日本』ドイツ、ルール大学ボーフム、2014年2月12日

吉田雅子、"The International Expansion of Textiles with Flower, Bird, and Animal Designs", 'Interwoven Globe Symposium, 2013年10月4日 The Metropolitan Museum of Art

日高薫、「17・18世紀ヨーロッパにおける中国趣味と室内装飾」ワークショップ「啓蒙-『魂』の輸入と『翻訳』-」文部科学省日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(S)「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」(研究代表者:東京大学羽田正教授)と本科研との共同開催、2012年2月11日、東京大学東洋文化研究所

櫻庭美咲、「18世紀バイロイトの事例にみるシノワズリ」ワークショップ「啓蒙-『魂』の輸入と『翻訳』-」(同上)、2012年2月11日、東京大学東洋文化研究所

日高薫、「東洋風小部屋の装飾と『漆(japan)』」ジャポニズム学会畠山公開シンポジウム「西洋における中国/日本-17~19世紀のシノワズリーとジャポニズム-」、2011年11月5日、根津美術館

櫻庭美咲、「ドイツ王侯による磁器陳列室について」ジャポニズム学会畠山公開シンポジウム「西洋における中国/日本-17~19世紀のシノワズリーとジャポニズム-」、2011年11月5日、根津美術館

山崎剛、「シノワズリー『欧州的中国風設計』と日本工芸美術」清華大学美術学院

芸術学専攻特別講義 於清華大学美術学院 中国・北京、2011年9月3日

岩崎均史、「近世庶民に於けるアルファベット受容の傾向~ABCD(アベセデ)の魅惑~」法政大学国際に本学研究所「国際日本学の方法に基づく<日本意識>の再検討」プロジェクト国際シンポジウム日本意識と対外意識、2011年7月16日、法政大学市ヶ谷キャンパス

櫻庭美咲、「Chinese junks carrying Japanese porcelain」オランダ国立博物館主催 Seminar 'Chinese and Japanese porcelain for the Netherlands in the 17th century'、2011年5月12日、フリース博物館(オランダ・レーワルデン)

櫻庭美咲、「オランダ東インド会社文書からみるアジアの陶磁貿易」中近東文化センター附属博物館、2010年5月29日、中近東文化センター(招待講演)

日高薫、"Maritime Trade in Asia and the Circulation of Lacquerware", 'Crossing Borders : The Conservation, Science and Material Culture of East Asian Lacquer' conference、2009年10月30日、Victoria and Albert Museum(イギリス)

吉田雅子 "Bird, Flower, Animal Design Embroideries Produced in China, Exported to Japan and Europe in the late 16th through the Early 17th Centuries" Centre International d'Étude des Textiles Anciens (C.I.E.T.A.)、2009年9月

吉田雅子、「黒川古文化研究所の花鳥獣文様刺繍布が語りかけること-その制作時期及びリスボンの作例の新たな位置づけ」民俗芸術学会、2009年6月25日

〔図書〕(計 3件)

櫻庭美咲、『西洋宮廷と日本輸出磁器 東西貿易の文化創造』藝華書院、564頁、2014年

吉田雅子(共著)、『京都近郊の祭礼幕調査報告書 渡来染織品の部』祇園祭山鉾連合会、2013年

日高薫(共著)、『歴史研究の最前線 美術資料に歴史を読む』第11号、「ヨーロッパ向け輸出漆器にみる異国観」6-42頁、2009年

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

6 . 研究組織

(1)研究代表者

日高 薫 (HIDAKA KAORI)
人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館・
研究部・教授
研究者番号：80230944

(2)研究分担者

荒川 正明 (ARAKAWA MASAACKI)
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：70392884

山崎 剛 (YAMAZAKI TSUYOSHI)
金沢美術工芸大学・美術工芸学部・
教授
研究者番号：70210391

澤田和人 (SAWADA KAZUTO)
人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館・
研究部・准教授
研究者番号：80353374

(3)連携研究者

坂本 満 (SAKAMOTO MITSURU)
人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館・
研究部・名誉教授
研究者番号：40000450

櫻庭 美咲 (SAKURABA MIKI)
人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館
・研究部・機関研究員
研究者番号：20425151

吉田 雅子 (YOSHIDA MASAKO)
京都市立芸術大学・造形学部・准教授
研究者番号：40405238